

令和7年度事業報告

令和7年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

① 令和7年度瀬戸内海環境保全月間の実施

環境省が毎年6月に実施する「環境月間」にあわせ、国、関係府県市、関係各種団体、関係企業などとの連携・協力のもとに、瀬戸内海の保全に関する広域的なキャンペーン活動を展開した。

- ・ 期間：令和7年6月1日（日）から30日（月）までの1ヶ月間
- ・ 主唱：公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
- ・ 後援：環境省
- ・ 実施主体：関係府県市、関係各種団体、関係企業等
- ・ 実施内容：「瀬戸内海環境保全月間」の広報

「瀬戸内海環境保全推進ポスター」の配布・掲出

普及啓発用リーフレット・グッズ等の配布

パネル・絵画・写真の展示

環境保全に関する講演会、研修会等の開催、協力

水辺、浜辺での自然・生物観察等「自然観察会」の開催、協力

河川、海岸等のクリーンアップ、植樹等の地域美化活動の実施

河川、海域での水質・生物調査、環境パトロールの実施

ア 瀬戸内海環境保全推進ポスター事業の展開(昭和52年度～)

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

1) 令和7年度瀬戸内海環境保全推進ポスターの配布・掲示

令和6年度に公募し、選定された最優秀作品を令和7年度瀬戸内海環境保全推進ポスターとして作成し、瀬戸内海環境保全月間に合わせて関係機関に配布して、瀬戸内海環境保全月間以降も広く掲示した。

なお、最優秀作品、優秀作品については定時総会で表彰した。

・配布枚数：3,500枚

〔令和7年度瀬戸内海環境保全推進ポスター表彰作品〕



最優秀賞 田中 優羽 (小学生)
(兵庫県豊岡市)



優秀賞 石川 結喜 (小学生)
(愛媛県伊予郡)



優秀賞 上坂 咲乃 (高校生)
(京都府宇治市)

令和7年度定時総会での表彰



令和7年度定時総会会場での記念撮影
左から福山雅章理事長、服部洋平（兵庫県副知事）、石川結喜（優秀賞）、田中優羽（最優秀賞）、上坂咲乃（優秀賞）、西川絢子（環境省海域環境管理室長）



令和7年度定時総会会場入口付近のポスター原画の前での記念撮影
左から服部洋平（兵庫県副知事）、上坂咲乃（優秀賞）、田中優羽（最優秀賞）、石川結喜（優秀賞）、西川絢子（環境省海域環境管理室長）

2) 令和8年度瀬戸内海環境保全推進ポスター募集・選定（平成11年度～）

令和8年度瀬戸内海環境保全月間に向け、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・作品募集期間：令和7年6月1日（日）～11月30日（日）
- ・ポスター選定委員会の開催：令和8年2月12日（木）
- ・ポスター応募数：一般部門351件　こども部門410件　総数761件

② 瀬戸内海環境保全への支援

ア 「里海づくり」支援事業の展開（平成23年度～）

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対する資材提供（水生生物下敷、水質パックテスト等）や海洋プラスチックごみ対策事業に対する資金助成を行った。

- ・支援対象事業：自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
環境ボランティアの人材育成事業
海洋プラスチックごみ対策に係るセミナー等のイベント
- ・支援府県市：12府県14市（6年度は12府県11市、5年度は13府県16市）
- ・事業実施期間：令和7年7月1日（火）～令和8年2月28日（土）

イ 環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が行っている浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

（これとは別枠で海洋プラスチックごみ対策に係る事業も助成）

- ・申請団体：3環境衛生団体、6漁業団体
- ・事業実施期間：令和7年4月1日（火）～令和8年3月31日（火）

③ 環境保全研修の実施

ア 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施（平成10年度～）

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や環境技術等、瀬戸内海の新たな取り組みについて研修を行った。

- ・日時：令和7年10月22日（水）～10月24日（金）
- ・場所（講義）：安芸区民文化センター（広島県広島市安芸区）
（現地研修・視察）：さとうみ科学館（広島県江田島市）
- ・参加人数：27名（10府県14市）

・講義

「瀬戸内海の海洋環境総論～豊かな海づくりのために～」

香川大学 名誉教授 多田 邦尚 氏

「瀬戸内海における環境政策と未来の方向性」

環境省水・大気環境局環境管理課環境創造室

室長 森川 政人 氏

「瀬戸内海の水環境・生態系管理」

広島大学 教授 西嶋 渉 氏

「高松市東部の河川と海域におけるプラスチックごみの特徴」

香川大学 教授 石塚 正秀 氏

「広島県における水環境保全の取組」

広島県環境県民局環境保全課

参事 福富 裕之 氏

・現地研修

「広島カキへの海域用施肥材の検討について」

(一財) 広島県環境保健協会環境保全課

課長補佐 中原 真哉 氏

「瀬戸内海の海洋プラスチックごみを考える」

(一財) 広島県環境保健協会地域支援課

主査 馬場田真一 氏

「里海を地域資源とした「特色ある教育」の推進」

大柿自然環境体験学習交流館（さとうみ科学館）

館長 西原 直久 氏

・干潟観察

・ワークショップ

研修生を4つの班に分け、「環境保全と地域の里海づくりの推進」をテーマに班別討議し、その後、全体討議を行った。

アドバイザー： 広島大学 名誉教授 松田 治 氏



講 義



講 義



現地研修（さとうみ科学館）



干潟観察



ワークショップ（班別討議）



ワークショップ（全体討議）

イ 瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・主催：（公社）瀬戸内海環境保全協会、瀬戸内海環境保全地区組織会議、（公社）山口県快適環境づくり連合会

- ・後援：山口県

- ・日時：令和7年9月11日（木）

- ・場所：KDDI維新ホール（山口県山口市）

- ・参加人数：92名

- ・講演：「海洋プラスチック汚染の現状と今後

～海洋観測による監視とシミュレーション予測～」

講師：九州大学 応用力学研究所 教授 磯辺 篤彦 氏

- ・体験交流・意見交換：

【広島県】「美しい瀬戸内海を守るため尾道市公衛協の取り組み」
一般社団法人尾道市公衆衛生推進協議会

【山口県】「地域と歩む 未来へつなぐ環境活動」
西岐波地区環境衛生推進協議会

【広島県】「RCCの環境に関する取り組みご紹介～なぜ放送局が一社を立ち上げ、環境問題に取り組むのか？～」

(一社) 瀬戸内プロジェクトin広島

【瀬戸協】(公社) 瀬戸内海環境保全協会の取組

ウ 瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催(平成6年度～)

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い決定した。

1) 第1回研修会(見学)

・日時 : 令和7年11月14日(金) 13:00～16:30

・現地研修: 「下水道処理施設での能動的管理運転」

神戸市建設局西水環境センター垂水下水処理場

「水族館発、都市圏での里海づくりの挑戦」

(一社) 須磨里海の会 代表理事 吉田 裕之 氏

・参加人数: 25名



講演1



講演2

2) 第2回研修会(座学)

・テーマ : 見えない海を可視化するー最新科学が変える海の未来ー

・日時 : 令和8年1月21日(水)

・場所 : スペースアルファ三宮 大会議室

・開催方式: ハイブリッド方式(対面、Web)

・内容 : 「海の次世代モビリティの更なる社会実装に向けた国土交通省の取組」について

国土交通省総合政策局海洋政策課

課長補佐 永井 哲

「リモートセンシングの最先端：広く細かく海を観る」

九州大学 応用力学研究所

准教授 市川 香

「AIを活用した採苗判断のためのカキ養殖採苗支援ツール
カキNaviについて」

中国電力（株）エネルギーギア総合研究所

研究員 古川有梨花

「環境DNAの現状と今後について」

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

教授 源 利文

・参加人数：会場参加10名、Web参加107名 計117名



エ 特別講演会の開催

令和7年度定時総会の終了後、同じ会場で特別講演会を開催した。

- ・日時：令和7年5月29日(木) 15:30～17:00
- ・場所：神戸国際会館セミナーハウス
- ・演題：豊かな瀬戸内海に向けた提言
- ・講師：広島大学 名誉教授 松田 治 氏
- ・参加人数：会場参加19名、Web参加81名 計100名

④ 環境保全事業への参加・協力

ア 会員等主催事業への参加・支援

会員等が主催する環境イベントでの共催や後援、瀬戸内海の環境保全に係るパネル（里海・海ごみ等）の貸し出しや展示等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

- イ) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和7年度瀬戸内海研究フォーラム in 香川の協賛（令和7年9月8日(月)～9日(火)）」
- ロ) 北九州市環境衛生総連合会が主催する「第61回北九州市環境衛生大会」の後援（令和7年10月10日(金)）

- ハ) (一財)広島県環境保健協会が主催する「広島県公衆衛生大会」の後援(令和7年11月19日(水))
- ニ) 環境と健康のポスター・標語コンクールの(一財)広島県環境保健協会との共催(令和7年11月19日(水))
- ホ) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和7年度瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ」の後援(令和7年12月11日(木))
- ヘ) パネルの貸し出し、電子データの使用許諾

団体名	目 的【開催地】	時 期	区 分	内 容
ナガセケム テックス㈱	社内向けHPにパネルデータを掲載 【兵庫県たつの市】	令和7年6月2日(月)～ 6月30日(月)	電 子 デ ー タ の 使 用 許 諾	気候変動、スナメリ、海ごみ、アマモ等のパネルデータ
四国水族館	四国水族館アートギャラリー 【香川県綾歌郡宇多津町】	令和7年8月1日(金)～ 9月30日(日)	パネル・ポ ス タ ー 原 画 の 貸 し 出 し	瀬戸内海環境保全推進ポスター最優秀過去10年原画等
(一財)広島 県 環 境 保 健 協 会	広島県公衆衛生大会 【広島県福山市】	令和7年11月 19日(水)	原 画 の 貸 し 出 し	令和7年度瀬戸内海環境保全推進ポスター入選作品原画

イ 環境NGO・NPO等との連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

1) 後援名義使用の承認

- ・3海峡クリーンアップ大作戦(鳴門海峡・紀淡海峡・明石海峡)の後援
海岸清掃：淡路島 令和7年11月2日(日)
徳島 令和7年11月8日(土)

⑤ 瀬戸内海の理解と魅力向上事業(令和4年度～)

Web上で瀬戸内海について知ってもらい、その魅力を感じてもらうために、特定非営利活動法人瀬戸内海研究会に委託して作成した環境教育用テキストの素材を編集した、「瀬戸内海の理解と魅力向上『Web 学習テキスト』」を協会HPに掲載し、周知を行った。

⑥ 瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

ア 瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海環境保全特別措置法の基本理念に基づき、豊かで美しい瀬戸内海の実現をめざし、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、国に対する提案や種々の取組みを進めた。

イ 国に対する提案(昭和52年度～)

栄養塩類の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県や団体だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた施策の推進、調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

・提案先：環境省(24人)、水産庁(12人)、財務省(23人)、国土交通省(27人)
計86人

・提案事項：

施策の推進

- (1) 漁業に係る持続可能な豊かな海づくりのための湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな栄養塩類の管理手法や順応的管理の考え方に基づく取組の推進方策及び評価手法の具体化並びにそのための財政支援
- (2) 藻場、干潟等の浅場の整備、環境配慮型護岸の整備、底質の改善及び赤潮防止対策の推進並びにそのための財政支援
- (3) 水質浄化・物質循環に寄与する二枚貝等の増殖対策の推進
- (4) 瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (5) 瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の文化、魅力の再評価及び地域の活性化、課題解決を図る事業の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (6) 多様な主体と連携・協力した海ごみ（漂着、漂流及び海底ごみ）の現状把握、回収・処理、流入防止や発生抑制も含めた対策の推進及び財政支援
- (7) 里海や豊かな海に関する一般市民の認知、理解並びに意識及び行動の変革の推進
- (8) 瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (9) 地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）及びその活性化並びにそのための継続的な支援体制の整備

調査・研究

- (10) 豊かな海づくりのための栄養塩類の管理と生物の多様性・水産資源の持続的な利用の確保に係る栄養塩類の働きを踏まえた高次生態系モデルの構築に関する調査・研究及び生態系データの共有化
- (11) 気候変動や高蓄積性・難分解性の有害化学物質及び物質循環低下の影響並びに栄養塩類管理及び生物多様性・生物生産性確保の観点でその影響を予測する瀬戸内海の環境モデルの開発に関する調査・研究
- (12) 施肥及び下水処理場の管理運転等による栄養塩類供給手法が海藻や貝類等の生物等の水産資源の成長等を与える影響に関する調査・研究

- (13) 栄養塩類管理のための各湾灘の実態に応じた栄養塩類供給措置以外の手法（流況改善等）に関する改善方策及び改善効果の調査・研究
- (14) 赤潮や貝毒に係る有害・有毒プランクトンの発生と防除に関する調査・研究
- (15) 藻場・干潟の機能と造成効果に関する調査・研究（藻場・干潟の生態系に取り込まれたブルーカーボンに関するものを含む）
- (16) 水温上昇により助長される貧酸素水塊の発生要因の解明、改善方策に関する調査・研究
- (17) 瀬戸内海的环境データの収集とデータベース機能の充実（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）及び瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (18) 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全及び失われた環境の修復・創造に関する調査・研究
- (19) 多様な主体と連携・協力した海ごみ（特に海洋プラスチックごみ）の流入実態把握、効果的な流入防止対策及び発生抑制への取組に関する調査・研究
- (20) 里海や豊かな海に関する一般市民の認知及び理解の現状把握並びにその向上に関する調査・研究
- (21) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議の調査・研究及び普及・教育活動に対する支援

ウ 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

また、次の措置を行った。

- ・賛助会員が瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムに参加する際の旅費の半額補助

エ 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う次の事業の企画運営について支援・協力を行った。

- 1) 瀬戸内海研究フォーラム in 香川
 - ・テーマ：豊かな海の実現戦略
 - ・日時：令和7年9月8日(月)～9日(火)
 - ・場所：サンポートホール高松
- 2) 瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ
 - ・テーマ：地球温暖化による瀬戸内海への影響を考える
 - ・日時：令和7年12月11日(木)
 - ・場所：スペースアルファ三宮

オ 国際的な活動への協力

(公財)国際エメックスセンターが行う国際的な行事について協力を行った。

(2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海的环境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

① 総合誌「瀬戸内海」の発行・配布(平成6年度～)

瀬戸内海其自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに会員限定で掲載した。

- ・発行回数：年1回（令和6年度までは年2回）

第90号：令和7年9月発行 350部

特集 海洋酸性化

- ・無償配布：会員団体（冊子）
- ・有償配布：購読者等（冊子）
購読料 1,500円（税込み）



「瀬戸内海」第90号

② 資料集「瀬戸内海的环境保全—令和7年度版—」の作成(昭和53年度～)

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海的环境保全—令和7年度版—」を作成しホームページに掲載した。（1年間は会員のみにアクセスを限定）

③ 協会ホームページによる情報の発信（平成10年度～）

瀬戸内海的环境保全に関する情報等を広く一般の方も容易に入手できるよう情報発信を行った。

④ メールマガジンによる情報の発信(平成23年度～)

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく会員を通じた普及啓発に資する情報発信を行った。

2 瀬戸内海的环境保全・創造に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海の実現に資する調査・研究事業について、外部資金の獲得を目指した活動を行う。令和7年度は次の事業を兵庫県から受託した。

- ① ひょうごの海を活用したブルーカーボンの創出業務（令和7年度：兵庫県委託）
藻場（海藻や海草）等のブルーカーボン生態系は、多様な生物の生息・生育する場としてだけでなく、近年はCO₂吸収源としても注目されている。

本業務では、藻場等の保全・再生及び創出に関する連絡会議の運営や県民向け藻場再生ガイドブックの作成、並びに藻場がほとんど存在しない大阪湾奥部での藻場創出試験を一体的に進めることによって「豊かで美しいひょうごの里海」の実現を図った。

Ⅱ 一般事項

1 会議等の開催

(1) 総会

- ① 定時総会（令和7年5月29日（木） 神戸国際会館セミナーハウス 大会場）
- ・令和6年度事業報告及び決算
 - ・会費の額
 - ・国に対する提案
 - ・定款の一部変更
 - ・役員の選任
 - ・令和7年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議した。

- ① 第26回理事会（令和7年5月13日（木） 神戸市立中央区文化センター）
- ・定時総会付議事項
 - ・専門委員の選任
- ② 第27回理事会（令和8年3月18日（水） 神戸市立中央区文化センター）
- ・令和7年度事業実施状況
 - ・令和8年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

令和7年度における協会の事業推進のための検討及び令和8年度事業計画の検討・企画を行った。

ア 第1回企画委員会（令和7年12月12日（金） 三宮研修センター）

- ・令和7年度事業実施状況
- ・令和8年度事業計画の検討
- ・設立50周年記念事業（案）

イ 第2回企画委員会（令和8年2月16日（月） 神戸市中央区文化センター）

- ・令和7年度事業実施状況
- ・令和8年度事業計画（案）及び収支予算書（案）
- ・設立50周年記念事業（案）

② 編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

ア 第1回編集委員会（令和7年11月20日（木） 神戸市立中央区文化センター）

・「瀬戸内海」の発行について

・「瀬戸内海」91号（令和8年6月発行予定）の特集について

③ 賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

ア 第1回賛助会員部会（令和7年8月19日（火）ANCHOR KOBE）

・令和7年度賛助会員に関する事業等について

イ 第2回賛助会員部会（令和8年3月23日（月）Web会議）

④ 協会設立50周年事業検討ワーキング

令和8年に協会設立50周年を迎えるにあたり、企画委員選出団体より募ったワーキングメンバーで50周年事業（記念式典、関連事業等）の企画、検討を行った。

ア 第1回ワーキング（令和7年11月10日（月）Web会議）

・協会設立50周年記念事業の内容

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（令和8年3月13日（金）神戸国際会館セミナーハウス）

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

2 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、賛助会員部会委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

定 道生	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
高原伸兒	兵庫県環境部水大気課長
秋山日登美	広島県環境県民局環境保全課長
佐藤敏幸	香川県環境森林部環境管理課長
若松正人	大分県生活環境部環境保全課長
阿部照之	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
梶原大伸	神戸市環境局環境保全課長
西川克弥	吹田市環境部環境保全指導課長
重見大作	松山市環境部環境指導課長
末富武志	山口県漁業協同組合指導部次長
久津那幸敏	愛媛県漁業協同組合担い手対策部長兼漁政部長
中村博信	（一財）広島県環境保健協会地域活動支援センター長
河本英一	（公社）山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員（10名）

井上尚和	(株)神戸製鋼所安全・環境部シニアプロフェッショナル
佐藤敏幸	香川県環境森林部環境管理課長
森川政人	環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室室長補佐
佐山 浩	関西学院大学総合政策学部教授
高原伸兒	兵庫県環境部水大気課長 (瀬戸内海環境保全知事・市長会議事務局長)
五利江重昭	兵庫県立農林水産技術総合センター内水面漁業センター所長
住田典子	(一財)広島県環境保健協会地域支援課長
藤原建紀	京都大学名誉教授
滝本恵介	関西電力(株) 火力事業本部火力運営部門発電グループ チーフマネジャー
鷺尾圭司	NPO法人里海づくり研究会議副理事長・日本伝統食品 研究会会長（独立行政法人水産大学校 元理事長）

(3) 賛助会員部会委員（7名）

滝本恵介	関西電力(株) 火力事業本部火力運営部門発電グループチーフマネジャー
西山友世	川崎重工業(株) 環境・エネルギー管理部環境エネルギー推進課基幹職
泥 俊和	(株)神戸製鋼所 理事兼安全・環境部長
中西浩之	四国電力(株) 立地環境部環境グループ グループリーダー
小野 健	いであ(株)大阪支社 環境技術部長
磯野直博	大塚製薬(株) 徳島本部環境課長
杉村恒俊	山口県瀬戸内海環境保全協会 (株)トクヤマ 徳山製造所 環境安全部環境管理課長)

Ⅲ 法人の運営体制の充実を図るための取組

1 外部理事・外部監事の選任と活用

外部理事として、環境の保全と創造に取り組む団体の代表者を選任し、理事会における客観的・専門的な視点からの意思決定への参画を図っている。

また、外部監事として、公認会計士（税理士資格併有）を選任し、財務・会計面における専門的見地から適正な監査が実施できる体制を整備している。

2 規範の整備

共催、後援等の承認に関し、適正な審査手続きを確保するため、「共催・協賛・後援等取扱規程（令和3年度）」を制定し、共催等の申請を受けた際には、法人の公益目的との整合性及び適正性を組織的に審査・承認する体制を整えている。

3 業務の適正化

事務局内において月2回の業務会議を定期開催し、各担当者が業務の進捗や懸案事項を相互に共有する体制を構築し、問題の早期発見と組織的対応を可能とする内部管理体制の充実を図っている。

4 資金管理の適正性・信頼性の確保

決済時の二重チェック体制構築及び金銭の支払業務における誤送金・不正送金を防止するため、複数の担当者による確認及び承認を段階的に行う内部統制の仕組みを整備し、資金管理の適正性・信頼性の確保に努めている。

5 会員への情報提供

正会員及び賛助会員に対し、メールマガジンを配信し、各種事業や法人運営に関する情報を提供することで、会員とのコミュニケーションの確保と法人運営の透明性の向上に努めている。